

陸連時報 三

2019
平成31年

1

月号

題字は平沼亮三(初代陸連会長)の書

目 次

第3回ユースオリンピック競技大会報告	166
功労章・秩父宮章・高校優秀指導者章・中学優秀指導者章・勲功章	167
陸上競技研究紀要投稿募集について(陸上競技研究紀要編集委員会)	171
第25回JAAFコーチング・クリニック参加者募集(女性指導者のためのコーチング・クリニック)	172
第27回日本陸上競技連盟トレーナーセミナー開催案内	173
日本陸上競技連盟 新プロジェクト「JAAF RunLink」発足	174
2018数字で見る陸上競技Vol.3 都道府県別日体協公認指導者数(陸上競技)	177
大会観戦ガイド	178
陸協NEWS	180
事務局からのお知らせ	182

公告

「陸連時報」は公益財団法人日本陸上競技連盟定款第4条第6号の「機関誌」の性格を有するものですが、毎月「陸上競技マガジン」と一体として発行しています。陸上競技に関する啓発記事のほか、必要に応じて、評議員会、理事会の決定事項、各専門委員会、事務局からの報告、通達も掲載いたします。本時報に掲載した通達は、公式に通達したものと取扱わさせていただきますので、登録競技者は本時報の掲載内容にご注意下さい。また、陸上競技指導者の方は、所属競技者にお知らせ下さるようお願い致します。

公益財団法人日本陸上競技連盟

第3回ユースオリンピック競技大会 報告

2018年10月6日から18日にかけて、アルゼンチン・ブエノスアイレスにて第3回ユースオリンピック競技大会が開催された。陸上競技は10月11日から16日にかけて実施され、7月4日、5日にタイ・バンコクにて行われたユースオリンピックアジア地区予選を勝ち抜き、日本オリンピック委員会による選考で出場権を獲得した男子8名、女子6名の選手が出場した。

本大会は前半3日間はStage1、後半がStage2になり、それぞれの順位または記録の合算で最終順位が確定した。1500m、3000m、2000mSCにおけるStage2は、4kmのクロスカントリーであった。

現地到着時は予想以上に気温が低く、荒天時の競技環境に不安を抱いた。実際にStage1の前半2日間は天候が悪く、特に初日は気温13度の雨天での競技となった。陸上競技場は雨をしのぐ場所がなく、日頃、日本選手は国内の整った環境の中で競技会をできていることを再認識するとともに、海外では条件が悪い中でも力を出す能力が求められることを選手も感じたことと思う。

競技の結果は、男子において400mHで出口晴翔選手（東福岡高等学校）が金メダル、棒高跳で古澤一生選手（前橋育英高等学校）が銀メダル、100mで池田成諒選手（島原高等学校）、走幅跳で和田晃輝選手（太成学院大学高等学校）が銅メダルと合計4個のメダルを獲得し健闘した。

女子はメダル獲得者無しに終わり、世界との力の差を感じる結果となった。ただ、1500mに出場した金光由樹選手（岡山操山高等学校）は、Stage1の1500mが4位、Stage2のクロスカントリーが3位と総合4位であった。3位の選手と同ポイントであったが、クロスカントリーの順位を優先するというルールにより、メダルを逃した。特に中長距離では、シニア同様にレースペースの急激な変化に対応する強さがなければ勝負にならない状況であった。さらに、1500m、3000m、2000mSCの選手が男女別に同一レースで行われたクロスカントリーは、集計されるまで順位がわからず、競う相手が明確にできないまま、レースを行ったことが今回の結果に影響したと考えられる。本大会の特殊なルールに加え、選手のコンディ

ションと、風・気温などの外的条件の違いにより順位に変動が起っていた。このルールにあって、日本チーム唯一の金メダルを獲得した出口選手は、Stage1が1レーンスタートと最も悪い条件の中、全体1位記録でStage2につなぎ優勝したことは評価できる。また、古澤選手は海外の試合でStage1、Stage2と連続して自己記録を更新した。最終的に大会前の自己記録を22cm更新したことは賞賛に値する。ユースオリンピックのルールはシニアの競技会とは違い、複合種目の実施や、あえて外的要因が順位へ直接影響する状況を作るなど、いたずらに専門性が高まることを回避するための工夫がされていた。国内においてもユース世代の競技会の在り方として参考となった。

また、本大会の理想は、スポーツ・文化・教育が一体となったイベントを実現することであり、オリンピックの意義を実感し、友情や相互の尊重を表現できるよう、様々な文化・教育プログラムが行われた。入村してからの1週間、選手たちは積極的にプログラムに参加した。選手たちがプログラム会場で多くの海外選手と交流する事を楽しみにしていた様子や、慣れない英語とジェスチャーを使いながら、他国の選手とコミュニケーションをとっている光景が見えた点から、オリンピズムを体感する目的は果たせたと感じる。このプログラムがきっかけで、選手は臆することなく国際交流を自然に図ることができていた。同時に、よりコミュニケーションを深め、相手を理解するためにも英語力の必要性をそれぞれが感じていた。この大会を機に、選手たちには国際的な競技力向上に向けて競技に励んでほしい。



No.	種目	氏名	所属	自己ベスト	日付	stage1		日付	stage2		日付	Cross country		総合順位	
						記録	全体順位		記録	全体順位		記録	全体順位		
1	男子 100m	池田 成諒	島原高等学校	10.52	10/12	10.82(1/2h)	-2.0m/s	3位	10/15	10.30(3/5h)+3.4m/s	3位			21.12pt 銅メダル	
2	男子 1500m	石田 洸介	東京農業大学第二高等学校	3:49.72	10/12	3:57.25(5/1h)		11位				10/15	11:52	5位	16pt 7位入賞
3	男子 3000m	梶山 林太郎	世羅高等学校	8:16.18	10/11	8:22.15		5位				10/15	12:10	8位	13pt 8位入賞
4	男子 400mH	出口 晴翔	東福岡高等学校	51.17	10/13	51.40(1/1h)		1位	10/16	51.28(1/2h)	1位				1:42.88 金メダル
5	男子 5000mW	岩川 祐介	浜北西高等学校	21:16.19	10/11	21:49.40		10位	10/15	23:20.84	12位				45:10.24pt 12位
6	男子 走幅跳	和田 晃輝	太成学院大学高等学校	7.58	10/12	7.46 +3.4m/s		4位	10/15	7.66 +2.8m/s	3位				15.12pt 銅メダル
7	男子 棒高跳	古澤 一生	前橋育英高等学校	5.05	10/13	5.10		3位	10/16	5.22 PB	2位				10.32pt 銀メダル
8	男子 やり投	中村 健太郎	清風南海高等学校	72.04(ユース規格)	10/13	66.31		13位	10/16	64.55	12位				130.86 12位
9	女子 100m	新坂 太佳子	西池AC	11.92	10/12	12.22(2/2h)	-1.2m/s	7位	10/15	11.65(8/5h)+3.3m/s	8位				23.87pt 8位入賞
10	女子 800m	上田 万葵	広島市立舟入高等学校	2:07.12	10/11	2:09.91(3/3h)		8位	10/14	2:10.06(5/3h)	5位				4:18.97pt 7位入賞
11	女子 1500m	金光 由樹	岡山操山高等学校	4:18.26	10/12	4:24.41(4/2h)		4位				10/15	13:13	3位	7pt 4位入賞
12	女子 3000m	菅田 雅香	東海大学付属福岡高等学校	9:17.97	10/11	9:21.16 SB		5位				10/15	13:59	11位	16pt 9位
13	女子 走幅跳	中津川 亜月	浜松市立高等学校	6.23	10/11	5.86 -0.8m/s		6位	10/14	6.14 +4.1m/s	5位				12.00pt 6位入賞
14	女子 やり投	中村 結香	若松商業高等学校	51.10(ユース規格)	10/13	43.82		14位	10/16	DNS					順位無し

功労章・秩父宮章・高校優秀指導者章・中学優秀指導者章・勲功章

2017年度功労章、秩父宮章、高校優秀指導者章、中学優秀指導者章、2018年度勲功章、を第73回国民体育大会陸上競技会の開催期間中の10月6日(土)、国体会場である福井県福井市の福井県福井運動公園陸上競技場(9.98スタジアム)で授与致しました。下記にて受章者の方々を紹介致します。

2017年度功労章

(役職等は2018年3月31日現在)

区分	所属	氏名	役職
東海	長野	伊藤利博	長野陸上競技協会 副会長
四国	香川	都村忠弘	香川陸上競技協会 会長
本部	学連	永井 純	日本学生陸上競技連合 専務理事

2018年度勲功章

氏名	所属	種目	内容
小池 祐貴	ANA	男子200m	第18回アジア競技大会(2018/ジャカルタ) 1位
山本 聖途	トヨタ自動車	男子棒高跳	第18回アジア競技大会(2018/ジャカルタ) 1位
勝木 隼人	自衛隊体育学校	男子50km競歩	第18回アジア競技大会(2018/ジャカルタ) 1位
井上 大仁	MHPS	男子マラソン	第18回アジア競技大会(2018/ジャカルタ) 1位
右代 啓祐	国土館クラブ	男子十種競技	第18回アジア競技大会(2018/ジャカルタ) 1位
山縣 亮太	セイコー	男子4×100mリレー	第18回アジア競技大会(2018/ジャカルタ) 1位
多田 修平	関西学院大学	男子4×100mリレー	第18回アジア競技大会(2018/ジャカルタ) 1位
桐生 祥秀	日本生命	男子4×100mリレー	第18回アジア競技大会(2018/ジャカルタ) 1位
ケンブリッジ飛鳥	Nike	男子4×100mリレー	第18回アジア競技大会(2018/ジャカルタ) 1位
橋岡 優輝	日本大学	男子走幅跳	第17回U20世界陸上競技選手権大会(2018/タンペレ) 1位
田中 希実	ND28AC	女子3000m	第17回U20世界陸上競技選手権大会(2018/タンペレ) 1位
臼井 淳一	—	—	小池祐貴の指導者
小林 史明	日本体育大学	—	山本聖途の指導者
岩瀬 真	自衛隊体育学校	—	勝木隼人の指導者
黒木 純	MHPS	—	井上大仁の指導者
岡田 雅次	国土館大学	—	右代啓祐の指導者
川合伸太郎	慶應義塾大学	—	山縣亮太の指導者
林 直也	関西学院大学	—	多田修平の指導者
土江 寛裕	東洋大学	—	桐生祥秀の指導者
瀧野 辰雄	日本大学	—	ケンブリッジ飛鳥の指導者
森長 正樹	日本大学	—	橋岡優輝の指導者
前田 泰秀	ND28AC	—	田中希実の指導者

2017年度秩父宮章

(役職等は2018年3月31日現在)

No	区分	所属	氏名	役職
2115	北海道	北海道	柿本 弘之	北海道陸上競技協会 顧問
2116	東北	岩手	阿部 忠	(前) 岩手陸上競技協会 理事長
2117	東北	宮城	小野 寛	宮城陸上競技協会 理事
2118	東北	福島	片平 俊夫	福島陸上競技協会 名誉顧問
2119	関東	茨城	大塚 博	石岡市陸上競技協会 理事長
2120	関東	栃木	福田 勤	栃木陸上競技協会 評議員
2121	関東	埼玉	中田 次夫	関東陸上競技協会 理事長／埼玉陸上競技協会 理事長
2122	関東	千葉	寺内 実	成田市陸上競技協会 名誉会長
2123	関東	神奈川	須藤 成臣	神奈川陸上競技協会 医事部長
2124	東京	東京	中野 人志	東京陸上競技協会 理事長
2125	北陸	富山	安田 寛一	富山市陸上競技協会 副会長
2126	北陸	福井	片岡 雅彦	福井陸上競技協会 副会長
2127	東海	静岡	石野 吟策	静岡陸上競技協会 常務理事
2128	東海	愛知	稲垣 隆司	東海陸上競技協会 会長／愛知陸上競技協会 会長
2129	東海	愛知	新見 精三	愛知陸上競技協会 理事
2130	東海	岐阜	安福 弘典	岐阜陸上競技協会 常務理事
2131	近畿	滋賀	井上 彌彦	滋賀陸上競技協会 副会長
2132	近畿	京都	宮崎 幹也	京都陸上競技協会 副専務理事
2133	近畿	大阪	原田 新也	大阪陸上競技協会 理事
2134	近畿	兵庫	森口 智夫	兵庫陸上競技協会 理事
2135	中国	鳥取	新田 明彦	鳥取陸上競技協会 専務理事
2136	中国	島根	大久保 稔	島根陸上競技協会 顧問
2137	中国	岡山	越宗 孝昌	岡山陸上競技協会 会長
2138	四国	香川	梶原 健次	香川陸上競技協会 評議員
2139	四国	愛媛	関谷 勝嗣	愛媛陸上競技協会 会長
2140	九州	佐賀	池田 明廣	佐賀陸上競技協会 副理事長
2141	九州	熊本	早瀬 宏	熊本陸上競技協会 参与
2142	九州	宮崎	中馬 光久	宮崎陸上競技協会 理事
2143	九州	沖縄	國場 馨	沖縄陸上競技協会 会長
2144	本部	実業団	松本 俊裕	住友電工陸上部 顧問
2145	本部	学連	安藤 好郎	東海学生陸上競技連盟 会長
2146	本部	高体連	佐藤 学	全国高等学校体育連盟陸上競技専門部 常任委員
2147	本部	マスターズ	岡 桂子	日本マスターズ陸上競技連合 理事・事務局長
2148	本部	科学委員会	深代 千之	(元) 日本陸上競技連盟 科学委員会委員
2149	本部	医事委員会	櫻庭 景植	日本陸上競技連盟 医事委員会委員

2017年度高校優秀指導者章

(役職等は2018年3月31日現在)

No.	地域	氏名	陸上の地位	指導実績				
				選手名	年	大会名	種目	順位
1	北海道	伊藤新太郎	北海道陸上競技協会強化指定コーチ	長井 晃希	2013	全国高校総体	八種競技	5位
2	青森	前田 祐生	青森県高体連陸上競技専門部副委員長	山形 光	2017	全国大通総体	走幅跳	1位
3	岩手	千葉 信彦	岩手県高校体育連盟陸上競技専門部常任委員	田代 優仁	2013	国民体育大会	110mH	2位
4	宮城	村上 純	宮城県高等学校体育連盟陸上競技専門部大崎地区委員長	菊池 美緒	2017	全国高校総体	ハンマー投	1位
5	秋田	渡邊 一郎	秋田県立十和田高等学校陸上競技部顧問	—	2005	全国高校駅伝	駅伝	出場
6	山形	半田 亘	山形県高体連陸上専門部競技委員長	五十嵐海成	2016	国民体育大会	5000m競歩	5位
7	福島	松田 和宏	福島陸上競技協会駅伝委員会長距離コーチ	半澤 黎斗	2017	全国高校総体	1500m	1位
8	茨城	根本 康成	茨城県高体連陸上競技専門部駅伝委員会	飯島 陸斗	2015	全国高校総体	800m	1位
9	栃木	川田 浩司	(元)栃木県高等学校体育連盟陸上競技専門委員	小竹 理恩	2017	国民体育大会	400m	8位
10	群馬	吉田 正	群馬県高校体育連盟陸上競技専門部情報部主任	山崎 光星	2015	全国高校総体	走高跳	4位
11	埼玉	木村 一也	埼玉県立羽生第一高等学校陸上部顧問	末吉 龍太	2014	全国高校総体	棒高跳	8位
12	千葉	稲葉 剛	千葉陸上競技協会強化委員	杉村 奏笑	2015	アジアユース選手権	走幅跳	1位
13	東京	藤本 正隆	東京都高校体育連盟陸上競技専門部常任委員会強化委員	平賀 奏美	2014	国民体育大会	1500m	6位
14	神奈川	齊藤 高志	神奈川県高等学校体育連盟陸上競技専門部専門委員	岩崎 仁美	1998	国民体育大会	円盤投	1位
15	山梨	塩島 朋子	山梨県陸上競技協会強化委員会総務委員・育成部女性委員	横谷 真人	2013	国民体育大会	110mH	出場
16	新潟	金子 峰人	新潟県高体連陸上競技専門部専門委員	黒川 哲雄	2004	国民体育大会	200m	1位
17	富山	笠原 寿人	新川高等学校陸上競技部顧問	堀内美沙樹	2017	全国高校総体	七種競技	5位
18	石川	田村 智成	石川陸上競技協会強化部長	吉田 唯莉	2017	全国高校総体	100mH	1位
19	福井	千秋 直樹	福井県高等学校体育連盟陸上競技専門部委員長	安永 聖	2015	全国高校総体	走幅跳	8位
20	長野	野村 勝巳	長野陸上競技協会普及強化コーチ	塩島 亮太	2012	全国高校総体	5000m競歩	5位
21	静岡	小林 一幸	静岡陸上競技協会常任理事	野毛 伸子	2004	国民体育大会	砲丸投	3位
22	愛知	宇野 雅昭	愛知県高等学校体育連盟陸上競技専門部委員	浅井さくら	2016	全国高校総体	走高跳	1位
23	岐阜	吉村 優治	岐阜県陸上競技協会写真判定係副主任	小森 大輝	2009	国民体育大会	800m	4位
24	三重	久保 幸弘	三重陸上競技協会強化委員会ヘッドコーチ	伊藤エリカ	2017	全国高校総体	ハンマー投	4位
25	滋賀	馬場 豊	滋賀陸上競技協会常務理事	辻田 尚宏	2001	全国高校総体	100m	5位
26	京都	多田 毅	京都陸上競技協会理事・強化普及部副部長	金治 良佳	2013	日本ユース選手権	棒高跳	5位
27	大阪	宮崎 晋吾	大阪府高体連陸上競技専門部常任委員・跳躍コーチ	船津 哲史	1992	全国高校総体	棒高跳	1位
28	兵庫	大久保良正	兵庫陸上競技協会強化コーチ	ディーン 元気	2009	国民体育大会	やり投	1位
29	奈良	吉川 克宏	奈良県高体連陸上競技専門部駅伝部部长	中山 貴之	2007	全国高校総体	やり投	出場
30	和歌山	今井 宏明	初芝橋本高等学校陸上競技部顧問	増田 吉史	1995	国民体育大会	400m	7位
31	鳥取	雷田 学	鳥取県高校体育連盟陸上競技専門部競技力向上委員長	西澤 真徳	2005	国民体育大会	110mH	1位
32	島根	森川 並男	石見智翠館高等学校陸上競技部監督	伊達真由子	2001	島根県高校総体	3000m	1位
33	岡山	長尾友紀子	岡山県高体連陸上競技専門部委員	小野祐紀子	2008	全国高校総体	円盤投	3位
34	広島	原野みどり	広島陸上競技協会強化委員会委員	樫原 沙紀	2017	国民体育大会	1500m	4位
35	山口	西村 章	山口県高等学校体育連盟駅伝専門部長北支部委員	源 裕貴	2017	国民体育大会	800m	6位
36	徳島	清住 直健	徳島陸上競技協会強化委員会短距離コーチ	中内 亮太	2013	四国高校総体	100m	2位
37	香川	嶋田 秀和	香川県立高松工芸高等学校陸上競技部顧問	板東 琉太	2017	全国高校総体	走高跳	1位
38	愛媛	三谷 政史	愛媛県高体連陸上競技部専門員	十亀 慎也	2004	全国高校総体	走幅跳	1位
39	高知	西本 正拓	高知陸上競技協会理事	政岡 智也	2016	四国大会	走幅跳	1位
40	福岡	上妻 厚紹	福岡県立中間高等学校陸上部監督	植木 純一	1999	全国高校総体	走幅跳	4位
41	佐賀	松瀬 元太	佐賀県高校体育委連盟陸上競技専門部長距離コーチ	平 駿介	2017	全国高校選抜	10000m	3位
42	長崎	山川 貴広	長崎県高体連駅伝専門委員	林田 洋翔	2017	国民体育大会	3000m	1位
43	熊本	吉田 謙	熊本県高体連駅伝競技専門委員	矢田みくに	2016	U20世界ジュニア	5000m	出場
44	大分	穴井 伸也	大分陸上競技協会強化部国体監督	兒玉 芽生	2017	全国高校総体	100m	1位
45	宮崎	田中 真二	宮崎陸上競技協会強化部短距離コーチ	松岡 知紀	2017	U18日本選手権	400m	3位
46	鹿児島	川口 浩司	鹿児島陸上競技協会強化部員	桑代 啓太	2013	全国高校総体	円盤投	出場
47	沖縄	喜納 敦	全国都道府県対抗駅伝沖縄県コーチ	関口 海月	2012	全国高校総体九州地区予選大会	3000mSC	1位

2017年度中学優秀指導者章

(役職等は2018年3月31日現在)

No.	地域	氏名	陸上の地位	指導実績				
				選手名	年	大会名	種目	順位
1	北海道	佐藤 強	道南陸上競技協会普及委員会副委員長	石堂 陽奈	2017	全日本中学	100m	1位
2	青森	中嶋 素大	黒石市立中郷中学校陸上部顧問	斎藤 翔太	2017	ジュニアオリンピック	走高跳	2位
3	岩手	觸澤 公孝	岩手陸上競技協会強化部跳躍コーチ	栃澤 里奈	2017	中学通信陸上 岩手県大会	100m 1年	1位
4	宮城	今野 恒徳	宮城県中学校体育連盟陸上競技専門部副委員長	千葉 史典	2005	全国男子駅伝	駅伝	3位
5	秋田	酒井久美子	秋田県中学校体育連盟陸上競技専門部員	佐藤 さよ子	1992	全日本中学	三種競技A	4位
6	山形	半田 典子	山形県中学校体育連盟陸上競技専門部強化スタッフ	清水 裕貴	2017	全日本中学	400m	出場
7	福島	古川真理子	福島陸上競技協会強化委員会ジュニア短距離コーチ	山下 潤	2012	全日本中学	200m	6位
8	茨城	澤木 努	茨城県中学校体育連盟陸上競技専門部長距離コーチ	会田 拓海	2013	全日本中学	400m	3位
9	栃木	渋井 博之	那須塩原市立黒磯北中学校陸上部顧問	大谷 陽	2014	全日本中学	3000m	1位
10	群馬	波多野重雄	群馬県中学校体育連盟陸上競技部記録委員会委員	岩田 優奈	2012	全日本中学	200m	4位
11	埼玉	長屋 勝浩	川口市立幸並中学校陸上部顧問	梅宮 悠	2017	ジュニアオリンピック	100m	1位
12	千葉	菊池 崇志	千葉県小中学校体育連盟陸上競技専門部強化部	岩佐菜結子	2017	全日本中学	100mH	3位
13	東京	下山 敦子	東京都中学校陸上競技大会競技役員	高橋このか	2011	全日本中学	四種競技	5位
14	神奈川	小宮 昌志	神奈川県中学校体育連盟陸上競技専門部専門委員	田島梨紗乃	2012	全日本中学	100mH	2位
15	山梨	梶原 貴	山梨陸上競技協会審判員	前田 真	2008	全日本中学	砲丸投	7位
16	新潟	乙川 仁	新潟陸上競技協会資格審査部	間島麟太郎	2008	全日本中学	走幅跳	1位
17	富山	川口 雅也	富山県中学校体育連盟陸上競技専門部強化部長	利川 泰斗	2015	全日本中学	走幅跳	出場
18	石川	高木 樹	石川県中学校体育連盟陸上競技部普及部員	高橋 ルミ	2004	全日本中学	走高跳	3位
19	福井	伊与 啓一	福井県中学校体育連盟陸上競技専門部副部長	坂井あゆ美	2006	ジュニアオリンピック	走幅跳	4位
20	長野	竹内 万祐	(元)長野陸上競技協会普及強化コーチ	和田 有菜	2014	全国中学校駅伝	駅伝	2位
21	静岡	澤井 猛英	静岡陸上競技協会強化委員	太田 蒼翔	2017	全日本中学	走高跳	1位
22	愛知	横内 隆之	愛知県中小学校体育連盟陸上競技専門部駅伝部長	石巻中学校	2011	全国中学校駅伝	駅伝	8位
23	岐阜	松原 有宏	岐阜陸上競技協会中学強化部ヘッドコーチ兼投擲コーチ	西尾 拓巳	2012	全日本中学	四種競技	1位
24	三重	東 一郎	三重陸上競技協会審判委員会副委員長	中出 里央	2013	全日本中学	走高跳	6位
25	滋賀	宮川 拓也	滋賀県中学校体育連盟陸上競技専門部副委員長	土居 玲也	2014	全日本中学	砲丸投	1位
26	京都	松谷 健司	京都府中学校体育連盟監事	藤田 達康	2012	全日本中学	4×100mリレー	出場
27	大阪	山下 直樹	大阪府中学校体育連盟陸上競技部専門委員	岸本 雄介	2010	全日本中学	砲丸投	1位
28	兵庫	小宿 義幸	西脇市陸上競技協会理事長	仲田 祥平	2007	ジュニアオリンピック	110mH	1位
29	奈良	坂東 洋一	王寺町立王寺南中学校陸上部顧問	片嶋 佑果	2004	ジュニアオリンピック	円盤投	1位
30	和歌山	清水 歩	和歌山陸上競技協会理事・総務部長	田中 亮介	2006	全日本中学	走幅跳	出場
31	鳥取	山下 有司	鳥取県中学校体育連盟陸上競技部強化部長距離コーチ	福本 航太	2017	全日本中学	1500m	8位
32	島根	河村 靖宏	天皇杯男子駅伝島根県監督	鳥屋尾優介	2017	全日本中学	走高跳	出場
33	岡山	奥井 智昭	岡山県中学校体育連盟陸上競技部強化委員長	日笠 高寿	2001	ジュニアオリンピック	3000m	出場
34	広島	鈴木 晶雄	広島陸上競技協会企画広報委員会委員	吉本 真啓	2017	全国中学校駅伝	駅伝	2位
35	山口	杉原 康嗣	宇部市立上宇部中学校陸上部顧問	宮瀬 功斗	2016	国民体育大会	走幅跳	2位
36	徳島	田中 貴之	徳島陸上競技協会写真判定員	坂東 隆一	2003	四国中学校体育大会	200m	1位
37	香川	山村 茂正	観音寺市立大野原中学校陸上競技部顧問	田中 伶奈	2013	ジュニアオリンピック	走幅跳	8位
38	愛媛	矢野 隆行	愛媛県中学校体育連盟陸上競技専門部長距離コーチ	野本 唯人	2017	全日本中学	棒高跳	8位
39	高知	矢野 弘純	高知陸上競技協会情報処理副委員長	大野 心碧	2017	全日本中学	400m	2位
40	福岡	坂本 圭美	福岡市立下山門中学校陸上競技部顧問	阿部 龍斗	2015	全日本中学	110mH	2位
41	佐賀	香月 良介	有田町立有田中学校陸上競技顧問	百田 仁成	2016	全日本中学	800m	4位
42	長崎	溝上 元	国民体育大会長崎県チーム支援コーチ	河俣 明香	2017	全日本中学	走幅跳	6位
43	熊本	星田 章広	熊本県中学校体育連盟陸上競技専門部理事	村中 洸樹	2017	ジュニアオリンピック	110mH	6位
44	大分	廣田 祥正	大分市立大東中学校陸上部顧問	大東中学校	2017	全国中学校駅伝	駅伝	出場
45	宮崎	外園 武志	宮崎陸上競技協会強化部跳躍ブロック長	山内 優毅	2017	ジュニアオリンピック	走幅跳	1位
46	鹿児島	宮脇 征治	鹿児島陸上競技協会強化部員	瀬崎 勝太	2017	ジュニアオリンピック	走幅跳	4位
47	沖縄	川平 美羽	沖縄県中学校体育連盟陸上競技専門部	手登根永心	2016	ジュニアオリンピック	走幅跳	5位

陸上競技研究紀要投稿募集について

毎年指導者への有益な情報の提供を目的に、陸上競技研究紀要を毎年発行しています。

内容は、みなさまからの投稿論文、特集企画、科学委員会の研究報告、
医事委員会からのレポートなどで構成しています。

3月中の発行を予定しております、陸連ホームページに掲載いたします。

2018年1月末日締切で投稿論文を募集していますので、奮ってご応募ください。

「陸上競技研究紀要」 (Bulletin of Studies in Athletics of JAAF) 投稿規定

陸上競技研究紀要編集委員会

1. 投稿資格について

特に制限は設けない。

2. 投稿内容および種類について

投稿内容は陸上競技についての理論と実践に関するもので、内容に応じて、総説、原著、資料、指導法および指導記録の報告などに分類される。スタイルは和文、英文のどちらでもよい。投稿論文には上記の投稿種別を明記し、英文のタイトル、著者、所属、総説および原著には要約（150語以内）をつける。

（注：何らかの理由で英文要約等の作成が困難な場合は、編集委員会にその旨をご相談ください）

3. 採否等について

原稿は査読を行い、査読結果をもとに採否および掲載順序の決定、校正などは編集委員会が行う。

4. 原稿の書き方について

原稿は原則として、ワードプロセッサで作成する。本文は、横42文字×縦38字で1頁とする。（1頁は約1600字、刷り上がり10頁以内、図表もその頁数に含む、すべて白黒にて作成）
英文は、A4サイズタイプ用紙を使用し、15枚以内を原則とする。

計量単位は、原則として国際単位系（m、kg、secなど）とする。

また、英文字および数字は半角とする。

5. 文献の書き方について

本文中の文献は、著者（発行年）という形式で表記する。

例）田中（1996）は ——

文献は、原則として、本文最後に著者名のABC順で記載する。
書誌データの記載方法は、著者名（発行年）、論文名、誌名、巻（号）、ページの順とする。

例）吉原 礼、武田 理、小山宏之、阿江通良（2006）女子棒高跳選手の跳躍動作のバイオメカニクス的分析。
陸上競技研究紀要、2：58-64。

伊藤 宏（1992）陸上競技の発育・発達。陸上競技指導教本—基礎理論編—。日本陸上競技連盟編、大修館書店、55-72。

同一著者、同発行年の文献を複数引用した場合は発行年の後にa,b,cをつける。

例）田中ら（1996 b）は、——

6. 原稿の提出先

投稿原稿（本文、図表など）は、下記へE-mailの添付資料として送付するとともに、プリントしたものの1部を郵送する。

〒163-0717

東京都新宿区新宿2-7-1 小田急第一生命ビル17階
日本陸上競技連盟

「陸上競技研究紀要」編集委員会宛

（Tel 03-5321-6580 Fax 03-5321-6591）

E-mail：kiyou@jaaf.or.jp

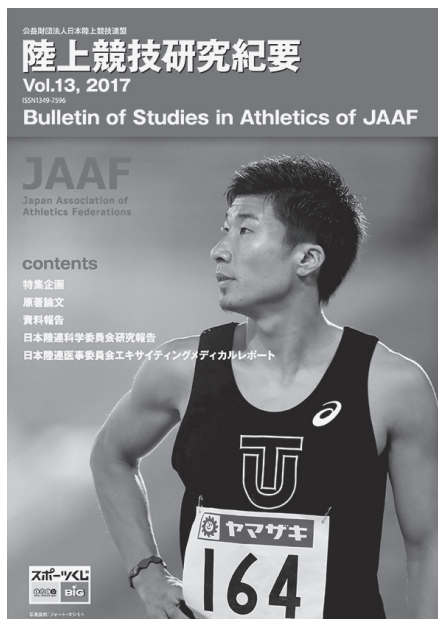
7. 原稿の締め切り

原稿の締め切りは特に設けず、随時受理し、査読を行う。ただし、2018年度版は、2019年1月末日とする。

8. その他

本研究紀要に掲載された内容の著作権は公益財団法人日本陸上競技連盟に帰属する。

（2018年11月 改訂）



第25回JAAFコーチング・クリニック

【女性指導者のためのコーチング・クリニック】

参加者募集

昨年度、初めての試みとして女性指導者を対象としたコーチング・クリニックを開催し、大変好評をいただきました。そこで今回は女性指導者を対象に、短距離・跳躍・投てきの3種目の「実技講習」、婦人科系や女性アスリートの三主徴などの諸問題についてのセミナー、女性指導者が活躍するためにアイデアを出し合うワークショップ等、現場で活かせる内容を盛り込み、女性限定ならではのコーチング・クリニックを開催いたします。女性の皆さん、是非ご参加ください。

〈開催要項〉

名 称：女性指導者のためのコーチングクリニック
主 催：日本陸上競技連盟、広島陸上競技協会
後 援：広島県教育委員会、広島県体育協会
協 力：中国陸上競技協会
協 賛：アシックスジャパン株式会社
期 日：2019年2月10日（日） 10：00～16：00（9：30受付）
会 場：広島修道大学 広島県広島市安佐南区大塚東1-1-1

内 容：
・実技講習（短距離/ハードル、跳躍/棒高跳、投てき）
・セミナー：女性特性（女性アスリートの三主徴など）について
※女性アスリート三主徴とは：無月経・摂取エネルギー不足状態・骨粗鬆症
・ワークショップ：「女性指導者活躍宣言」

〈予定〉

9：30 受付開始
10：00 開講式
10：15～12：50 実技講習
13：45～14：45 セミナー
14：55～15：40 ワークショップ
15：50 閉講式

講 師：吉田真希子 400m 53秒20
400mH 55秒89 日本歴代2位 元日本記録保持者
近藤 高代 棒高跳 4m35 日本歴代3位 元日本記録保持者
2004アテネオリンピック出場、2005・2007・2009世界選手権出場
成瀬美代子 円盤投 56m51 日本歴代2位
1994広島アジア大会3位
高尾 美穂 産婦人科専門医・医学博士・婦人科スポーツドクター
女性のための総合ヘルスクリニック イーク表参道 副院長
文部科学省・国立スポーツ科学センター女性アスリート育成・支援プロジェクトメンバー

参加対象：女性指導者及び今後指導に関わりたい女性（成人女性：20歳～60歳）

定 員：60名

参加料：JAAF公認指導者資格有資格者 5,000円

それ以外の方 7,000円

※参加費は理由の如何に関わらず返却できません。

申込方法：イー・モシコムよりお申込みください。

※お申込みはインターネットのみ、先着順となります。

URL：<https://moshicom.com/22228/>



申込期間：2018年11月15日（木）～2019年2月4日（月）まで

その他：
・講習会は公認スポーツ指導者の「義務研修」として位置付けておりますので、指導者資格をお持ちの方は積極的に受講してください。
・内容および講師は、諸事情により変更になる可能性があります。
・雨天でも開催いたします。雨天時には内容等が変更になる場合があります。
・昼食は各自持参してください。
・宿泊斡旋はしておりません。各自にてお願いいたします。
・講習中、ビデオでの撮影はご遠慮いただく場合がありますのでご了承ください。

問合せ：日本陸上競技連盟「女性指導者のためのコーチングクリニック」

担当：伊東・磯貝

TEL：03-5321-6580（平日 10：00～18：00）

FAX：03-5321-6591

MAIL：coach@jaaf.or.jp



第27回日本陸上競技連盟トレーナーセミナー開催案内

陸上競技現場で活動するトレーナーのためのセミナー

1992年、日本陸上競技連盟医事委員会トレーナー部は、1) 陸上競技における選手サポート体制の確立、2) トレーナーの意識、知識、技術の向上、3) トレーナーの地位確立、を主旨として設立されました。

トレーナー部では毎年「日本陸上競技連盟トレーナーセミナー」を開催しており、今回で27回目を迎えます。すでに多くの方がトレーナー部部員として、日本各地で地域に根ざしたトレーナー活動や、トップアスリートが参加する国内外の競技大会における救護活動やコンディショニングなど、幅広いサポート活動を行っています。またセミナー修了者を対象に年1～2回の研修会も開催しています。

第27回セミナーは以下の要領で開催いたします。受講希望の方は申込方法に従ってお申込下さい。

記

主催：公益財団法人日本陸上競技連盟

運営：公益財団法人日本陸上競技連盟 医事委員会 トレーナー部

期日：2019年3月22日（金）～24日（日）（3日間）

場所：味の素 ナショナルトレーニングセンター 研修室

参加費：¥25,000（教材費込み）

定員：100名（先着順）

参加資格：①現在陸上競技の現場に携わっている方（治療院・病院のみの活動では不可）。

②救急法に関する資格を保有、もしくは救急法に関する講習等に参加したことがある方。
かつ、他人の助力なしに一人で救護活動ができる方。

③3日間全日程を受講できる方。

申込方法：日本陸上競技連盟医事委員会トレーナー部のページの、お申込みフォームに必要事項を記載し、お申し込みください。

*サイトは1月7日（月）よりオープン致します。

*記載に漏れが有る場合は、申込を受諾できませんのでご注意ください。

申込みHP：<http://www.jaaf.or.jp/about/resist/trainer/>

受付開始：2019年1月7日（月）13：00より

締め切り：2019年1月21日（月）18：00まで

受講受付は基本的に先着順とします。また、お申し込みが定員以上で、同一所属団体（学校）からのお申し込みが多数の場合、所属団体内での調整をお願いする場合がありますので、予めご了承ください。

*定員を超えた場合は、陸上競技現場での活動状況により、お断りすることがあります。

*2月下旬迄に参加の採否をメールにて通知させていただきます。

*お問い合わせは、E-mailにて、日本陸連トレーナーセミナー係、担当村田まで。

その際、件名に「第27回トレーナーセミナーについて」と記載してください。

E-mail：trainer-kensyu@jaaf.or.jp

〈カリキュラム〉

「トレーナーガイダンス」

「健康管理」

「ドーピング・コントロール」

「整形外科－体幹・脊柱－」

「整形外科－下肢－」

「整形外科－上肢－」

「婦人科疾患」

「栄養学」

「バイオメカニクス」

「コンディショニング」

「アスレティックリハビリテーション」

「救急法」

*講師は本連盟医事委員会委員のドクター、トレーナー部委員を予定しています

日本陸上競技連盟 新プロジェクト「JAAF RunLink」発足 競技団体としての新たな役割としてウェルネス陸上の理念の実現へ 2040年までにランニング人口2000万人を目指す

公益財団法人日本陸上競技連盟は、市民マラソン大会の統括・支援、個々人のライフスタイルに合わせたランニングを楽しめる環境・機会を提供することを目的とした新プロジェクト「JAAF RunLink」（後援：スポーツ庁／経済産業省協力：一般社団法人日本経済団体連合会）を発足いたしました。トップアスリートの育成・強化に注力してきた、競技陸上中心のこれまでの取り組みに加え、競技団体としての新たな役割として、すべての人がすべてのステージにおいて陸上競技を楽しめる環境をつくるという「ウェルネス陸上」の理念の実現に向けて発足したプロジェクトになります。

全国各地で開催されている約2,000～3,000にもものぼる市民マラソン大会や行政、企業といった、あらゆるステークスホルダーとの連携や、数千万人とも言われるランナーデータを一元化したデータベースを構築し、そのビッグデータを活用していくことで、ランニング人口の拡大および、ランニング健康市場の活性化を目指しております。

JAAF RunLinkが今後行う、主な取り組み

①「JAAF RunLink加盟大会」への加盟を通じて、大会の安全・安心な環境作り

全国2,000～3,000あると言われている大会のうち、日本陸連公認は、わずか200大会。今後、非公認大会を中心に「JAAF RunLink加盟大会」という形で加盟を募り、運営支援を行うことで、大会価値の向上や安全水準を高めて参ります。

——統一の運営基準によるラベリング制度

従来、市民ランナーと呼ばれる一般ランナーへの安全管理については、各大会が独自に取り組んできましたが、JAAF RunLinkが安全基準を作ることで、より安全安心な環境づくりを実現して参ります。その後、「安全・安心」「サービス」「社会貢献」といったそれぞれの評価基準を策定し、JAAF RunLinkが評価。基準を満たした大会には、ランクに応じた評価ラベルを付与することを検討しております。（2020年より実施予定）



—— 共通サービスの利用

各大会に対し共通のサービスを提供して参ります。例えば、保険。ランナーが大会参加中に被ったケガ等の傷害事故だけでなく、熱中症や脱水症状、心筋梗塞等の重篤な事故に繋がりがやすい疾病事故まで対応することが理想ですが、現在は大会ごとに契約しているため、補償内容が統一されておりません。今後は、JAAF RunLinkが包括して契約することで、大規模大会と同水準の補償内容、かつ割安な保険料で各大会に提供することが可能になります。今後、同様の形で、AEDの貸与等、大会の運営を様々な側面から支援していく予定です。（※保険の導入は2018年12月予定）

—— JAAF RunLinkプラットフォームへの参加（※②を参照）

申し込み時の完走予想タイムが自己申告制の現状、早いタイムを申告すれば前のブロックからスタートが可能。そのため転倒のリスクやスタート直後の混雑を招いてしまう大きな原因となっています。今後はJAAF RunLinkが各ランナーの記録を管理し、過去の記録に基づいたエントリーができるようになることで、安全、かつスムーズなスタートが可能な環境づくりにも取り組みます。

②ランナーデータを一元化した「JAAF RunLinkプラットフォーム」の構築・活用

数千万人とも言われるランナーデータは現在、各サービスごとに分散していますが、今後は一元化・集約したデータベースを2019年6月中を目途に構築。一元化することでのランナーメリットとしてだけでなく、そこで集めたビッグデータを大会、そして企業・団体へ提供することでの新商品・サービス開発にご活用いただくこと

で、ランニング人口の拡大、ランニング・健康市場の活性化へと繋げて参ります。

③企業・団体に対する取り組み

JAAF RunLinkは、ランニング業界全体の底上げを目的に、1業種1社の排他的なスポンサーシップ制度ではなく、趣旨に賛同する企業団体であれば、同業種問わずご参画いただける、賛助会員制度を採用しました。JAAF RunLinkプラットフォームで得られたマーケティングデータの提供による新商品・サービス開発へご活用いただくだけでなく、数多くの企業団体にご参画いただくことで、今まで繋がりが得なかった企業・団体・行政をJAAF RunLinkを通じてマッチングをし、新規軸の大会の創出やランニングへのモチベーションを高めるような取り組みを実施して参ります。

プロジェクトのリーダーとして、一般財団法人東京マラソン財団事業担当局長・東京マラソンレースディレクターの早野忠昭がJAAF RunLinkチーフオフィサーとして指揮を執ります。さらにアドバイザーには、脳科学者・茂木健一郎氏、実業家・堀江貴文氏の両名にご就任いただき、外部の知見・ノウハウを活用しながらパワフルに推進して参ります。

○11月13日（火）発表会見の様子

早野忠昭JAAF RunLinkチーフオフィサーからアドバイザーに就任をした茂木健一郎氏、堀江貴文氏に、ランニング人口2,000万人を目指して、JAAF RunLinkでやってみたいことをお伺いした。

脳に良いラン（茂木健一郎）

走っている間にデフォルト・モード・ネットワークが活性化して、ストレス解消になって、ひらめきや発想



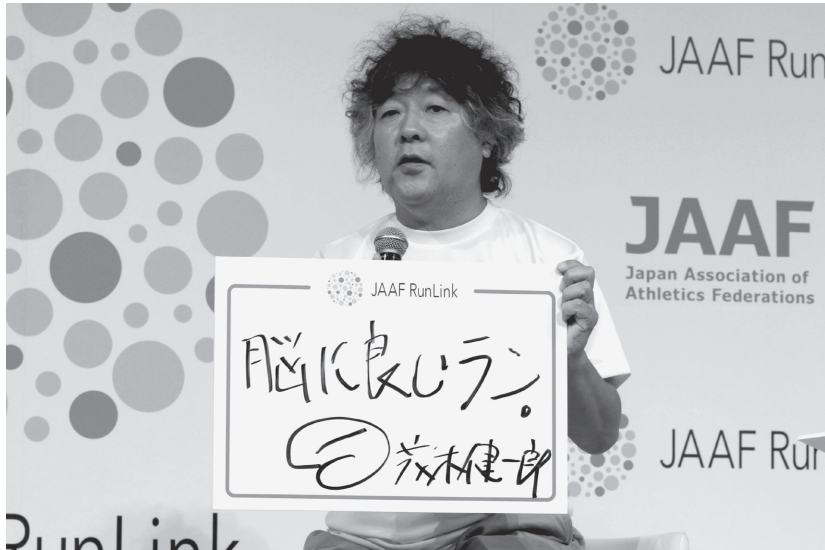
がうまれる。走っている間に思いついたプロジェクトや研究がいっぱいあります。ランニングは脳にいいのはもちろん、脳と体の健康はひと繋がりなので、走るとこんないいことがあるんだよ、というエビデンスを科学者としてお伝えしていきたい。自分のネットワークを通じて、走るのは楽しいという情報発信をしていきたい。

会社やサークルなどで定期的にランイベント(堀江貴文)

走ることは敷居が高い、苦手意識を持っている人も多いので、普段の生活場で定期的にできるイベントを例示していきたい。ランニングをするシチュエーションがイメージできていない人も多いと思うので、経団連も協力団体として入っているの、企業と一緒に隙間時間でランニングしましょう、など、こんな気楽な感じでいいんだよ。と、いくつか例示してやってみたい。取り上げず走ってみようという環境を作りたい。

【プロフィール】

- JAAF RunLink チーフオフィサー・早野忠昭 (はやのただあき)
一般財団法人東京マラソン財団事業担当局長・東京マラソンレースディレクター/日本陸上競技連盟総務企画委員/国際陸上競技連盟ロードランニングコミッション委員/スポーツ庁スポーツ審議会健康スポーツ部会委員/内閣府保険医療政策市民会議委員
高校時代は800mのインターハイチャンピオン。筑波大を卒業後、教員となり、その後渡米し、スポーツメーカーに勤務。東京マラソンには第1回から関わり、ワールドマラソン・メジャーズ入りに尽力
【ホームページURL】 <https://www.jaaf-runlink.jp/>
- JAAF RunLink アドバイザー・茂木健一郎 (もぎけんいちろう)
1962年生まれ。東京都出身。理学博士東京大学理学部、法学部卒業後、東京大学大学院理学系研究科物理学専攻課程修了。理化学研究所、ケンブリッジ大学を経て現在に至る。専門は脳科学、認知科学
- JAAF RunLink アドバイザー・堀江貴文 (ほりえたかふみ)
1972年生まれ。福岡県出身。SNSmedia & consulting株式会社フェウンダー。現在は宇宙ロケット開発や、スマホアプリ「TERIYAKI」「755」「マンガ新聞」のプロデュース、また予防医療普及協会としても活動するなど幅広く活躍



2018数字で見る陸上競技 都道府県別日本スポーツ協会公認指導者数(陸上競技)

事務局

2018数字で見る陸上競技、今回は陸上競技における日本語本スポーツ協会公認
スポーツ指導者資格有資格者数(都道府県別、資格別)をご紹介します。
なお、今回ご紹介する数字は、2017年11月16日付け登録者数です。

NO.	所属都道府	JAAF公認ジュニアコーチ		JAAF公認コーチ		合計
		指導員	上級指導員	コーチ	上級コーチ	
1	北海道	78		16	7	101
2	青森	32	2	11	4	49
3	岩手	53		23	6	82
4	宮城	50		9	2	61
5	秋田	36		10		46
6	山形	83		18	5	106
7	福島	115		26	3	144
8	茨城	39		26	10	75
9	栃木	34		17	4	55
10	群馬	79	1	24	3	107
11	埼玉	154	2	40	13	209
12	千葉	99	2	42	10	153
13	東京	263	4	60	22	349
14	神奈川	144		29	9	182
15	山梨	30	10	15	4	59
16	新潟	69	6	22	5	102
17	富山	44	2	32	5	83
18	石川	84		11	1	96
19	福井	48	1	10	3	62
20	長野	62		20	2	84
21	静岡	105	7	24	6	142
22	愛知	87		34	4	125
23	岐阜	86		28	4	118
24	三重	45	4	17	4	70
25	滋賀	50		23	4	77
26	京都	49		31	5	85
27	大阪	115	3	15	4	137
28	兵庫	93	1	20	2	116
29	奈良	31		13	1	45
30	和歌山	74		9	5	88
31	鳥取	39		7	3	49
32	島根	17		6	3	26
33	岡山	40		13	5	58
34	広島	126	3	20	8	157
35	山口	60	2	12	5	79
36	徳島	43		19	3	65
37	香川	31	1	9	1	42
38	愛媛	38		19	6	63
39	高知	36	1	16	1	54
40	福岡	92		11	8	111
41	佐賀	39	1	11	2	53
42	長崎	48	7	14	2	71
43	熊本	34	1	12	5	52
44	大分県	45	14	14	1	74
45	宮崎	91	2	18		111
46	鹿児島	63		25	2	90
47	沖縄	35	1	3	2	41
合計		3208	78	904	214	4404

大会観戦ガイド

男子第69回 女子第30回 全国高等学校駅伝競走大会

師走の都大路を走る全国高校駅伝。今年、優勝するのはどのチームになるのでしょうか。是非、沿道、競技場で応援ください！

▼日時：2018年12月23日（日）

女子10時20分スタート

男子12時30分スタート

▼会場（スタート・フィニッシュ）：

京都府・京都市西京極総合運動公園陸上競技場

▼アクセス：京都駅より

- ・ 阪急電鉄京都線西京極駅から徒歩10分
- ・ 京都市営バス73号系統「西京極運動公園前」下車徒歩5分

▼区間・コース：

〈男子〉男子全国高校駅伝コース7区間42.195km

- ・ 第1区10km（西京極陸上競技場－烏丸鞍馬口）
- ・ 第2区3km（烏丸鞍馬口－丸太町河原町）
- ・ 第3区8.1075km（丸太町河原町－国際会館前）
- ・ 第4区8.0875km（国際会館前－丸太町寺町）
- ・ 第5区3km（丸太町寺町－烏丸紫明）
- ・ 第6区5km（烏丸紫明－西大路下立売）
- ・ 第7区5km（西大路下立売－西京極陸上競技場）

〈女子〉女子全国高校駅伝コース5区間21.0975km

- ・ 第1区6km（西京極陸上競技場－平野神社前）

- ・ 第2区4.0975km（平野神社前－烏丸鞍馬口）
- ・ 第3区3km（烏丸鞍馬口－室町小学校前折返し－北大路船岡山）
- ・ 第4区3km（北大路船岡山－西大路下立売）
- ・ 第5区5km（西大路下立売－西京極陸上競技場）

▼大会公式サイト：

<http://www.koukouekiden.jp/>

▼問合せ先：全国高等学校駅伝競走大会事務局

（京都府立北嵯峨高等学校）

TEL / FAX 075-865-2700

皇后盃 第37回全国都道府県対抗 女子駅伝競走大会

新春の都大路で競う皇后盃全国女子駅伝。47都道府県を代表する中学生から一般までの選手に、是非、沿道、競技場でご声援ください！

▼日時：2019年1月13日（日）12時30分スタート

▼会場（スタート・フィニッシュ）：

京都府・京都市西京極総合運動公園陸上競技場

▼アクセス：西京極総合運動公園陸上競技場

- ・ 阪急電鉄京都線西京極駅から徒歩10分
- ・ 京都市バス32号・73号・80号系統「西京極運動公園前」下車徒歩5分

▼区間・コース：9区間42.195km

- ・ 第1区6km（西京極陸上競技場－平野神社前）



昨年度の大会の様子



昨年度の大会の様子

- ・第2区 4km (平野神社前 - 烏丸鞍馬口)
- ・第3区 3km (烏丸鞍馬口 - 丸太町河原町)
- ・第4区 4km (丸太町河原町 - 北白川山田町)
- ・第5区 4.1075km (北白川山田町 - 国立京都国際会館前)
- ・第6区 4.0875km (国立京都国際会館前 - 北白川別当町)
- ・第7区 4km (北白川別当町 - 丸太町寺町)
- ・第8区 3km (丸太町寺町 - 烏丸紫明)
- ・第9区 10km (烏丸紫明 - 西京極陸上競技場)

▼大会公式サイト：

<http://www.womens-ekiden.jp/>

▼問合せ先：皇后盃全国都道府県対抗女子駅伝事務局
(京都新聞COM事業局内)

TEL 075-213-0367 / FAX 075-241-5271

天皇盃 第24回全国都道府県対抗男子駅伝競走大会

新春の安芸路で競う天皇盃全国男子駅伝。47都道府県を代表する中学生から一般までの選手に、是非、沿道でご声援ください！

▼日時：2019年1月20日(日) 12時30分スタート

▼コース：広島市平和記念公園前を出発、平和大通り、宮島街道を西進し、JR前空駅東(廿日市市大野)を折り返し、平和大通り、城南通りを経由、広島市平和記念公園前を決勝とする7区間、48.0kmのコース。

▼アクセス：広島市平和記念公園

JR広島駅から南口バス乗り場A-3ホームより、広島バス24号線吉島営業所または吉島病院行き「平和記念公園」下車、広島電鉄「袋町」下車徒歩10分、「原爆ドーム前」下車徒歩10分

▼区間・コース：7区間48.0km

- ・第1区 7km (広島市平和記念公園前 - 広電井口駅東)
- ・第2区 3km (広電井口駅東 - 海老園交差点)
- ・第3区 8.5km (海老園交差点 - 宮島口ロータリー)
- ・第4区 5km (宮島口ロータリー - JR阿品駅南)
- ・第5区 8.5km (JR阿品駅南 - 広島工大高前)
- ・第6区 3km (広島工大高前 - 草津橋)
- ・第7区 13km (草津橋 - 広島市平和記念公園前)

▼大会公式サイト：

<http://www.hiroshima-ekiden.com/index.html>



昨年度の大会の様子



JAAF HOKKAIDO 一般財団法人北海道陸上競技協会

〒003-0626 札幌市白石区本通5丁目南4番11号
KJビル3号棟2階205
TEL.011-598-7407 FAX.011-598-7408
http://hokkaido-rikkyo.jp/

いつもお世話になっております。北海道陸上競技協会の橋本秀樹と申します。北海道はシーズンも終わり、ながい冬が始まりました。練習は学校の廊下や階段あるいは雪の上を走るしかありません。寒くて雪が北海道ですが指導者の先生達は、それぞれに限られた場所で工夫をこらした練習をしています。ただ、長距離種目は本州のチームに比べると、どうしても走り込み不足になります。毎年1月に男女都道府県駅伝が行われます。女子駅伝は京都で行われますが、北海道は冬真盛り、まさにバリバリ冬です。チームは正月の三日が明けると本州方面に合宿に行き、そのまま京都入ります。10日以上親元を離れる中学生等はホームシックになることがあります。監督さんをはじめスタッフの皆さんには苦勞を掛けています。私は男女の駅伝大会には必ず応援に行くことにしています。応援は勿論ですが、関西北海道クラブという会があります。北海道出身で関西に在住している。北海道出身ではないが、結婚して夫・妻が北海道出身。北海道出身ではないが職場の上司が北海道出身、北海道好きという人。これらの方がメンバーです。皆さんには本当にお世話になっております。広島男子駅伝のときには、「どさん子会」という会があり、京都と同じく温かく向かい入れてくれます。毎年、心待ちにしてくれる、会のみなさんには「感謝」の言葉しかありません。駅伝は襷をつなぐ競技です。関西北海道クラブやどさん子会の皆さんとは、いつまでも心の襷を繋いでいきたいと願っています。

JAAF AOMORI 一般財団法人青森陸上競技協会

〒038-0021 青森市安田字近野234-7
青森総合運動公園陸上競技場内
TEL.0173-34-7537 FAX.0173-34-7537
http://www.jomon.ne.jp/arikkyo/

2018年度のトラック&フィールドも終了しました。これから本格的に冬期の選手強化が予定されております。12月末から1月にかけては都道府県対抗駅伝に向けての合宿練習会が4泊5日で男女とも県外での予定です。また、中学生の選抜強化練習会が仙台で東北各県との合同合宿練習会が予定されております。会議としては常任理事会を開催し、今年度の事業報告と新年度に向けての事業計画について審議する予定です。事業中間報告と新年度行事予定の理事会が2月3日・2月17日には評議員会の開催予定です。財政面では思ったほど選手の登録者が減っていないのは助かっております。

本県選手の今年度の対外的競技会の成績は、富士通所属の岸本鷹幸選手は400mHで日本選手権を制し、アジア大会に出場しました。福井国体では、高校生が大いに活躍しました。その中でも、少年女子やり投げの奈良岡翠選手（弘前中央高校）が53m38を投げ優勝しました。この記録は青森県新記録・県高校新記録です。また、8月の全国高校総体では男子ハンマー投げで種目裕紀選手（弘前実業高校）が65m98の大会新記録で優勝しました。

新青森陸上競技場の完成がこの12月と予定されております。実際の競技場の使用については2019年度9月からの予定です。新総合運動公園の一部として新設されます。今現在の県営競技場に比較すると立派な施設ですが、難点は、補助競技場のトラックの外周が狭くテントの設置場所の確保が難しいと思われまます。また、駐車場が狭く大規模大会ともなると駐車スペースが不足の可能性が有ります。

(文責：理事長 安田信昭)

JAAF IWATE 一般財団法人岩手陸上競技協会

〒020-0822 盛岡市茶畑2-8-27
TEL.019-621-8460 FAX.019-656-9006
http://long-distance.jp/iwate/

2018年のトラックシーズンも無事終了し、ロード関係の大会を残すのみとなり、来シーズンに向けての準備にも入っていることと思います。
本県でも、強化部が中心となり、一層の強化に努めているところですが、今年は、各種大会で好成績を収め、その中で特筆されるのは、第73回福井しあわせ元気国体において、成年男子砲丸投の佐藤平選手（国士館クラブ・17m70）、成年男子やり投げの長沼元選手（国士館大学・77m67）がともに優勝の栄冠に輝いたことがあげられ、本県選手団の大きな弾みとなりました。第73回福井しあわせ元気国体での本県の成績は、8種目に入賞し、天皇杯得点36点を獲得し、天皇杯順位24位という成績でした。今後も、より一層の強化を推進しながら、成年・少年ともに充実を図っていきたいと思っています。

日本学生陸上競技個人選手権大会においては、高橋和生選手（早稲田大学）が1000mW40分27秒90で優勝。山田美来選手（日本体育大学）が第18回アジアジュニア陸上競技選手権大会4×100mRにおいて45秒94で銀メダル。第87回日本学生陸上競技対校選手権大会4×100mRにおいて44秒59（日本学生新記録・大会新記録）で優勝しています。

また、10月18日に第69回全国高校駅伝、第30回全国高校女子駅伝予選会が行われ、男子は選手層に勝る一関学院高等学校が他を圧倒し、2時間10分19秒で24連覇を達成、通算28度目の優勝を果たし、女子では盛岡誠桜高等学校が1時間13分51秒で12年連続12度目の優勝を飾りました。冷静なレース運びを繰り広げ、持てる力を十分に出し切った両校に対し健闘を称え、更なる活躍を期待したいと思います。

普及育成部では、小学生対象の普及育成事業として、昨年度から岩手県小学生陸上競技教室を開催し、県内各地に出向き、小学生における陸上競技の振興に資するために、陸上競技の楽しさ等を広げる活動を進めています。この事業をきっかけとして、中学校、高等学校、大学選手の活躍に継続し、様々な場面で活躍を期待しています。今年8月18日に開催された第34回全国小学生陸上競技交流大会では、男子80mHで吉田有樹選手（盛岡市立城南小学校6年）が12秒16の岩手県小学校新記録で接戦を制し優勝に輝きました。

審判部では、審判員研修として、東北総体時に公益財団法人日本陸上競技連盟から講師を招聘した東北陸上競技協会主催のスターター研修会が開催され、審判員の知識及び相互理解を深めるため、スターター数名を派遣しています。

来季も強化、普及育成、運営等々、一般財団法人岩手陸上競技協会としての組織・各種事業の展開に努めてまいります。(文責：理事長 山崎孝一)

JAAF MIYAGI 一般財団法人宮城陸上競技協会

〒981-0122 宮城郡利府町菅谷字籠40-1宮城県総合運動公園内
TEL.022-767-2194 FAX.022-767-2194
http://jaaf-miyagi.com/

第27回仙台国際ハーフマラソン大会が5月14日仙台市中心部で開かれ、12,9991人のランナーが、小雨に濡れた杜の都を駆け抜けました。メインのハーフマラソンコースは日本陸連公認コースで、弘進ゴムアスリートパーク仙台（仙台市陸上競技場）南側道路をスタートし、同競技場にゴールするコースです。

大会を盛り上げたのは地元富谷市出身の野口拓也選手（コニカミノルタ・宮城・東北一日本体大出）でした。男子で日本勢として第一人者先頭集団に加わりスピードある外国人選手を向こうに回して自己ベストを更新の1時間2分21秒で4位でした。

今回初めて導入された「救護ランナー」で医師や看護師ら計288人が登録し、コースを走りながら体調不良者に気を配るということです。当日は雨天で熱中症患者は無く救護関係者や大会実行役は一安心。

今回のゲストランナーは、「市民マラソンの星」谷川真理さん、ソウル、バルセロナ両五輪代表の中山竹通さん。5年連続でゴルタンナーだった高橋尚子さんは、スペシャルアンバサダーとしてゴール付近で選手を激励し、また、ランナーとハイタッチ仙台を盛りあげられました。

10月には、「東北・みやぎ復興マラソン2017」が開催されます。東日本大震災から5年半、2017年秋、『被災地復興のいま』をスポーツを通じて日本や世界に伝えようと頑張っております。

(文責：理事長 大泉一雄)

事務局からのお知らせ

◆◆ダイヤモンドアスリート特設ページ公開中!◆◆

本連盟認定の「ダイヤモンドアスリート」に関する情報提供を目的とした特設ページを公開しております!「リーダーシッププログラム」をはじめとしたダイヤモンドアスリートの活動情報を随時掲載いたします。より多くの次世代アスリートの参考になればと思っています!

<http://www.jaaf.or.jp/diamond/>



◆◆新プロジェクト「JAAF RunLink」発足!◆◆

日本陸上競技連盟は、市民マラソン大会の統括・支援、個々人のライフスタイルに合わせたランニングを楽しめる環境・機会を提供することを目的とした新プロジェクト「JAAF RunLink」を発足いたしました。トップアスリートの育成・強化に注力してきた、競技陸上中心のこれまでの取り組みに加え、競技団体としての新たな役割として、すべての人がすべてのステージにおいて陸上競技を楽しめる環境をつくるという「ウェルネス陸上」の理念の実現に向けて発足したプロジェクトになります。

<https://www.jaaf-runlink.jp>

ランニングに関わるすべての方へ
日本陸上競技連盟の
新たなプロジェクト始動



JAAF RunLink

陸連時報編集委員

◇編集委員

横川 浩 (陸連会長)
友永 義治 (陸連副会長)
八木 雅夫 (陸連副会長)
尾縣 貢 (陸連専務理事)
麻場 一徳 (陸連強化委員長)
風間 明 (陸連事務局長)
高橋 克実 (陸上競技マガジン編集長)

◇時報編集室責任者

大嶋 康弘
◇時報編集担当
繁田 進
石塚 浩
青木 和浩
宮田 宏
廣瀬 静香

陸連時報編集室

〒163-0717
東京都新宿区西新宿2-7-1
小田急第一生命ビル17階
公益財団法人日本陸上競技連盟 内
TEL 03-5321-6580
FAX 03-5321-6591
WEBサイト <http://www.jaaf.or.jp/>
公式動画サイト <http://japanathletics.tv/>